

平成17年7月
消費・安全局

小動物獣医療に関する検討会報告書概要

1. 経緯

動物を飼育する人や飼育動物を家族の一員と認識している人の増加に伴い、飼育者から求められる獣医療の高度化、多様化等、最近の小動物獣医療をめぐる情勢は大きく変化しており、このような状況を踏まえ、小動物獣医療の課題について検討し、報告書として取りまとめられた。

2. 概要

(1) 卒後臨床研修について

- ・ 大学と連携がとれる等一定の基準を満たす民間の診療施設を、臨床研修施設として指定することにより、臨床研修を充実させることが必要。
- ・ 民間の診療施設を指定する際の基準及び臨床研修目標について提案。

(2) 獣医核医学について

- ・ 獣医療の高度化のため、放射線診断・治療のニーズが増加。
- ・ 放射線防護に必要な施設基準、管理体制等について提案。

- (3) 獣医療における専門医について
- ・ 獣医療の高度化のため、各分野における専門医の育成が必要。
 - ・ 学術団体等が中心となって、専門医の必要性や認定基準の妥当性を評価する仕組み作りについて取り組むことが必要。
- (4) 獣医療における広告規制について
- ・ 飼育者が獣医療に関する情報を適切に入手できるように広告規制の緩和が必要。
 - ・ 規制緩和に当たっては、
 いずれの診療施設においても実施可能な診療行為であること
 飼育者が惑わされるおそれの少ないこと
 飼育者にとっての情報の必要性
 などの観点から進めることが必要。
 - ・ 不適切な誘引や不当な低価格診療による飼育動物の被害を防ぐため、価格広告や比較広告の禁止などの措置を十分に講じることが肝要。
- (5) 獣医療補助者について
- ・ 現在の小動物獣医療において、獣医療補助者が担う役割は重要であること。
 - ・ 社会的に安定した職業として確立するため、獣医療補助者の各団体及び獣医師団体が中心となって、教育水準、認定基準の平準化に向けた取り組みに着手すべき。

小動物獣医療に関する検討会委員

(五十音順)

	伊藤 伸彦	北里大学獣医畜産学部獣医学科教授
	岡本 有史	開業獣医師
座長	佐々木伸雄	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	塩谷 勝	東京都家畜保健衛生所長
	島田 壽子	協和綜合法律事務所弁護士
	中川 秀樹	開業獣医師
	細井戸大成	開業獣医師
	森田 邦雄	(財)日本冷凍食品検査協会常務理事
	矢ヶ崎忠夫	(社)日本動物用医薬品協会専務理事
	山崎 恵子	ペット研究会「互」主宰
	若尾 義人	麻布大学獣医学部獣医学科教授